

マレーシアの歴史

1. マラッカ王国の建設

スマトラ島の貴族パラメスワラが、反乱に失敗してシンガポールに逃れ、やがてマレー半島西岸に移り、そこにマラッカ王国を建設した (1391年頃)。マラッカは東南アジアの貿易港として発展した。しかし、宮廷内の派閥争いやポルトガルの攻撃により、マラッカ王国は崩壊した (1511年)。

2. ポルトガルの進出

ポルトガルのマラッカへの進出の目的は、東南アジアの貿易を独占することだった。ポルトガルは厳しい関税システムを導入することにより巨額の利益を上げたが、やがて個人の賄賂が横行するようになった。そこへ、オランダなどによる攻撃や、マラッカ内での疫病と飢餓の蔓延が重なった。ポルトガルは降伏し、マラッカはオランダに支配された (1641年)。オランダは、マラッカに貿易を担う会社を設立し、貿易を独占しようと試みた。

3. イギリスの侵略

マラッカは1度イギリスに占領されたが (1795年)、ヨーロッパ情勢の変化によって再びオランダに返還された (1818年)。さらに英蘭条約締結により、マレー半島全域がイギリスの勢力圏となり、スマトラおよびジャワがオランダの勢力圏となった (1824年)。

4. 日本の侵略

日本軍はマレーシアの首都クアラルンプールを占領した (1942年1月)。またイギリスとの激戦の末、英領マラヤのシンガポールを占領し、そこを昭南島と名付けた (1942年2月)。日本軍は、シンガポール在住の中国人が日本に対して政治的に強い反感を持っているとして、多数の中国人を殺害、あるいは収容所に入れた。殺害された人の数について、日本側は5000人から6000人と発表しているが、マレーシアの中学校の教科書には4万人と記載されている。

5. 独立

日本の無条件降伏の後、イギリスは、イギリスの指導による自治を目指したマラヤ連合案を構想した。しかし戦前には想像できなかったような民衆の政治運動が活発となって、イギリスはマラヤ連合案を放棄し、マラヤ連邦が発足された (1948年)。その後、マラヤ連邦はイギリスによって独立が承認され、植民地支配は終わった (1957年)。そして、マラヤ、シンガポール、サバ、サラワクが統合され、マレーシアという国が生まれた (1963年)。後にシンガポールはマレーシアから分離独立した (1965年)。

参考文献

- 綾部恒雄, 石井米雄. 1982. もっと知りたいマレーシア, pp. 1-33, 弘文堂.
水島司. 1993. アジア読本マレーシア, pp. 264-267, 296-299, 河出書房新社.